

静岡県の地質概要

1. 地形地質の概観

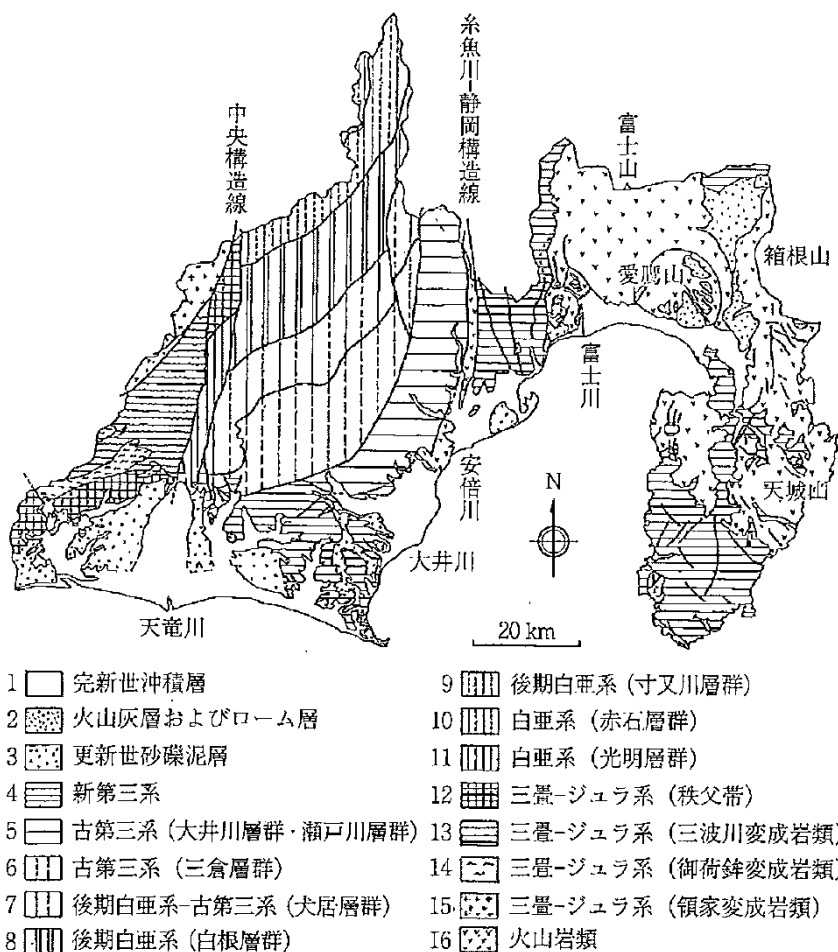


図 1-1 静岡県の地質概略図

出典：新版 静岡県 地学のガイド(2010), P17, 編集者 土隆一, 発行者 株コロナ社

静岡県の地形的な特徴として、山地が海岸近くまで迫っており平地が少ないことが挙げられる。これは、駿河トラフに代表される急峻な海底地形が大きく関わっており、河川の堆積作用に比べて沿岸流の浸食が勝っていることによるものである。河川によって運搬された土砂は海域に堆積するが、海底地形が急峻であるため下方に移動し、その過程で沿岸流によって浸食されてしまうということになる。

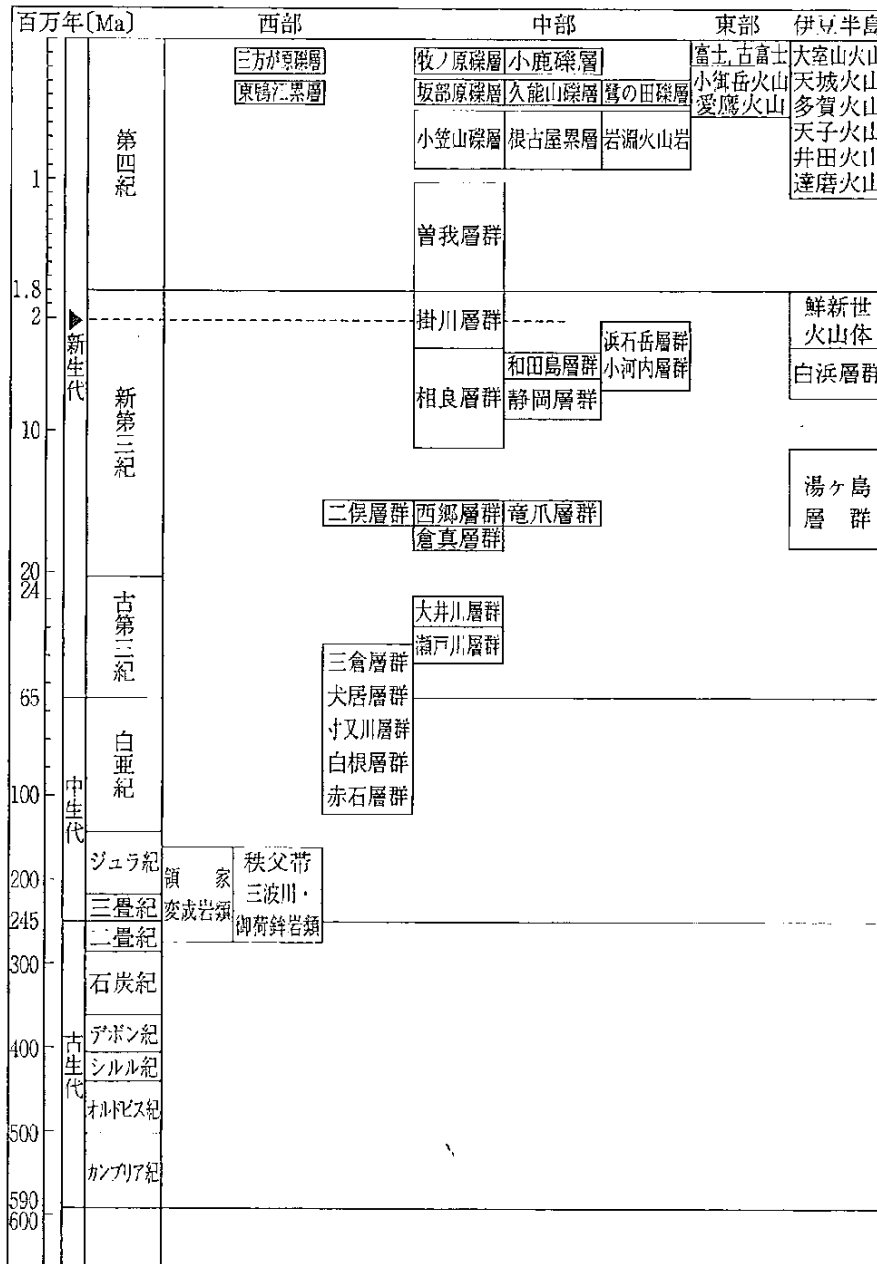
図-1 に静岡県の地質概略図を示す。平地域を覆う沖積層は海岸に沿った狭い範囲に分布する程度で、県土の大半は山地が占めていることがわかる。

日本列島の大局的な地質概観では中央構造線を挟み北側を内帯、南側を外帯と称して区分されている。静岡県の山地を構成する地質は外帯の地質が主体で、内帯の地質は県北西部の狭い範囲に見られる程度である。外帯の地質の特徴は、中～古生代から古第三紀までの地層が帯状に分布することが挙げられる。北から、三波川・御荷鉾帯、秩父帯、四万十帯、瀬戸川帯が、それぞれ中央構造線と平行に配列している。

その東側にはフォッサマグナの西縁を規定する糸魚川-静岡構造線が南北に走り、糸魚川-静岡構造線の東側には新第三系が分布し、さらに東側は富士火山の噴出物に覆われている。また、その南側に位置する伊豆半島は新第三系を基盤として所々更新世の火山噴出物に覆われている。なお、内帯の地質は領家帯によって構成される。

前述したとおり、沿岸部の狭い範囲に沖積層が分布し、所々更新世の台地～丘陵部も見られる。これら更新世の台地～丘陵部の大部分は礫層によって構成される。

以上のとおり、静岡県の構成地質は多岐にわたっており、中央構造線や糸魚川-静岡構造線等の大規模断層も通過する等地質構造も非常に複雑である。なお、図 1-2 に主な地層とその地質年代を示す。



▶-----は 2.588 Ma で 2009 年 6 月に IUGS (国際地質学連合) により、新しく定義された第四紀の基底の年代で Gelasian を含む。

図 1-2 静岡県の主な地層と地質年代

出典：新版 静岡県 地学のガイド(2010), P8, 編集者 土隆一, 発行者 ㈱コロナ社